

回復期入院のクオリティアップ

- 「できるADL」を「しているADL」への汎化を推進し、入院生活全てがリハビリテーションを実現する
病棟リハビリテーションの推進、モーニングセッション・ナイトセッションの導入、精緻な多職種連携（フレキシブル・スタンディングカンファレンスの適正運用）
- 家族との連携、維持期インフラとの連携推進
- 分野別カンファレンスの確立
- 嚥下カンファレンス、高次脳機能障害カンファレンス、脳画像カンファレンス、ウエルウオークカンファレンス、装具カンファレンス、栄養カンファレンス、転落・転倒環境設定回診、ニューロリハビリテーションカンファレンス、退院支援カンファレンス、退院前カンファレンスetc.
- 臨床心理ケア
- 認知症ケア
- 排尿ケア

ニューロリハビリテーションの深化と拡大

- 非侵襲的脳刺激法(NIBS)の研究：経頭蓋直流電気刺激 (tDCS)、反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)の研究と導入
- 神経筋電気刺激療法(NMES)の研究、応用拡大：摂食嚥下障害リハビリテーションへの導入
- CI療法、CI療法+電気刺激、HANDS療法
- 上肢ロボット研究
etc.

脳卒中後専門外来の本格化

1. 高次脳機能障害外来

- ①リハビリテーション：ADL、iADLの向上
通院リハビリテーションの発展、通所リハビリテーションの発展
- ②就労支援リハ、ソーシャルワーク就労移行支援事業所との連携、提携
- ③運転再開 評価、支援教習所との連携、提携
- ④大阪市高次脳機能障害包括ケア会議（仮称）を本格的に構築していく

2. ボトックス外来

ボトックス治療の拡大：治療選択肢の拡大＝ゼオマインの導入、集患機能の拡大＝学会、研究会などでの発表、ホームページや紙媒体での発信、地域の訪問事業所への周知活動など
ボツリヌス療法連携会議の再構築

東住吉森本総合リハビリテーションセンター構想

- 生活リハビリテーションセンター：通院・通所・訪問リハビリテーションの拡大。回復期から維持期まで専門外来を軸に網羅し、リハビリテーションで生活を支える
- 上肢・下肢機能障害リハビリテーションセンター（仮称）
 1. リハビリテーション支援ロボットウエルウォークの活用：下肢キャッチコピー「歩行を科学する」
 - 入院患者への早期からの積極使用
 - 維持期でのウエルウォーク活用研究：短期集中歩行ロボットリハビリテーションを想定
 - ボトックス治療との併用短期集中リハビリテーション入院、入所（回復期適応疾患ありかつ回復期入院歴が無い場合は入院可能、入所は老健たちばなのパッケージ）
 - 筋電図解析との併用
 2. 装具療法外来
 3. 上肢ロボット研究と導入
 4. ニューロリハビリテーション研究促進：スマートリハビリテーション室への発展を目指す
- 高次脳機能障害センター

高次脳機能障害外来の展開：大阪市高次脳機能障害包括ケア会議（仮称）を設立し、大阪市のモデル事業レベルの展開を目指す。

自動車運転再開は大阪市のモデル事業に参入する。教習所との連携、提携。必要であればシミュレーター導入
- 嚥下リハビリテーションセンター

VE、VFの院内導入

評価、訓練の習熟

嚥下評価・訓練外来へ発展

今後取り組むべき課題

外来部門成長とコロナゾーニング対策に伴うリハビリテーション室の拡張

教育システムの構築

学会、論文活動

事業継続計画（災害、感染症、サイバーetc.）

危機管理、IT管理

障がい者雇用

働き方、雇用の多様性

SDGsへのコミットメント

嚥下リハ

認知リハ

排尿ケア

栄養リハ サルコペニア

スポーツリハ

etc.

- 事業継続・危機管理・IT管理室（仮称）の設立

少子高齢社会、人口減少、地域医療構想下での病院淘汰、災害、パンデミックなどVUCAの時代の恒常的事業継続を管理する

- 嚥下リハビリテーションの促進

現在、VE、VFは東住吉森本病院で行っている。東住吉森本病院には、嚥下機能評価・訓練に関し熟練したSTがおり、協力体制を敷いている

中長期計画は成長発展戦略であり、専門性の高い選ばれるリハビリテーション病院を目指している。持てる人的・物的資源や計画の進捗状況などを鑑みた短期的検証を随時行い、投資が必要な計画の中で実行可能な状態と考えられた場合には、次年度予算に挙げる検討を行う

当院でのVE、VF設備の導入及び、外来部門での嚥下評価・訓練センターへの発展を目指す

- 運動器・スポーツリハビリテーションの促進

健康増進施設認定を取得する：医師の指示に基づく運動療法を実施する際に必要となる利用料金について、所得税法第73条規定する医療費控除の対象とすることができる

東住吉森本長居健康科学センター（仮称）：メディカルフィットネスクラブ併設

- 研究班臨床展開戦略会議

各研究班リーダーは、定期的にリーダーグループミーティングを行っている。刺激と着想の交換の場とすること、病院の全体像を捉えながら活動すること、コラボレーション、リンクの場とすることなどを旨としている

リーダーグループミーティングと共に、各研究班の実用準備が整ったものから順次臨床展開していくための戦略会議を設ける